

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ぐるーぷほーむ「しあわせの家」かなみ
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	田方郡函南町間宮
記入者名 (管理者)	取締役 ホーム長 増田 未一
記入日	平成 20年 2月 18日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	地域に根ざし、地域に慕われるホームを目指した理念を掲げている。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	理念について新人研修時にホーム長が解説し、常に確認できるよう、ホーム入り口に額に入れて掲示している。また、月例の職員会議で振り返りをするところがある。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	グループホームのあり方については、地域密着の意義を話し合い、その大切さを共感した上で積極的に地域に溶け込むよう心がけている。地域との会合での自己紹介では理念にもとづきホームとしての思いを話の中に入れていく。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	地域の保育園、小学校、自治会との交流も増え、徐々になじみの関係が進みつつある。また、散歩で、民家に立ち寄り犬に親しむ場面があつて、お年寄りの笑顔に触れることができる。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地元自治会の交流サロンに月に一度参加し、近所のお年寄りとの交流を楽しんでいる。また、地域の祭りや運動会への飛び入り参加では大勢の人の中で楽しむことができた。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	自治会との会合に参加した際、「認知症の方への接し方」を話す場面があり、参加した方からもっといろいろな事例の話を聞きたいの希望があった。今後も積極的に機会創出をしていきたい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は、自分たちの職場(グループホーム)を第三者に評価していただくことで、新たな発見や気づきを得、改善に役立てよう理解している。介護職全員が、自分たちのホームを客観的に自己評価し今回の外部評価に臨んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設より地域密着を図り、開かれたホームを目指して、運営推進会議を3ヶ月に一度実施している。また、地域交流サロンでは、内容の検討や高齢者の健康などについて実施の前の打ち合わせに1月より参加している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の高齢福祉課や議会の方にサービスの現状を見学していただく機会があり、意見をいただいている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	パンフレットを回覧し周知を図っているところである。	○	職員研修として研修計画を具体化してみる。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については職員会議でミニ研修をし、おおよその理解はできていると思うが、具体的な事例を検証したり、直面した場合の対応について段階的に研修していきたい。	○	職員研修として研修計画を具体化してみる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、説明のあと重要事項を(一部解説を入れて)読み上げ、理解を得るようにしている。納得していただいた上で締結している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者から出る希望や不満について出た意見は、申し送りや職員会議やミニカンファレンスで取り上げ、対応や方針を確認している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月に一度、「しあわせホームだより」を発行している。併わせて金銭出納簿の写し、入居者の生活に密着した写真、バイタルサインのグラフを添えてご家族に送付している。緊急時は電話連絡をし、家族来訪時は近況報告をしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	独自の利用者家族アンケートを実施し、意見をいただいている。また結果を公表(家族、運営推進委員に対し)している。入口には苦情相談のポスターを掲示している。出てきた意見は社内の経営会議で反映し、共有している。	○	家族会議の必要性について、家族からの希望は少ないが懇親の場でもいいので、家族交流の場が持てればと考えている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員の個人面談を実施しており、業務の話、健康上の話、日頃の思い、提案など意見や考えを反映する場をつくっている。出てきた意見はフィードバックして、業務改善につなげている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況の変化に対応すべく、看・介護職や管理職が緊急時対応している。また、行事など人手を要する場面では予め、職員の増員を要請して対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や退職の際の対応では、重複期間を設定するなどOJTを含め、円滑な引継ぎができるように配慮し、対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現状では開設後8ヶ月を経過したところであるが、接遇、感染症予防について外部研修を受講し、報告研修で全職員に水平展開を図っている。1月には福祉業界の動き、介護保険の現状、同事業の特性と利用者像について社内研修を実施している。	○	人事考課に「目標管理」導入し、個々のスキルアップを図りたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホームとおやつの差し入れ、年始の訪問挨拶程度の交流ができています。	○	今後、相互見学会など交流を図りたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	「個人面談」を実施している。ここでは、個人的な見地で話してもらうため、管理者と対象者の個室面談としている。管理者は職員の悩みや思いを聴くことで改善につなげたり、心身の健康管理の側面を重視している。	○	休憩時間の積極的活用と意識改革(休憩による切り替えの重要性に認識)、日勤リーダー制(休憩を含めたその日の進行まとめまとめ役の新設)など改善できたが、まだまだ途上段階であり、さらなる改善を模索したい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資質向上には評価と反映が不可欠であり、また、業務上の気づきを共有することも重要と考える。職員会議では個々の意見を多く聞くようにしている。そして、役割分担を明確にし、気軽に発言できる雰囲気と遠慮による停滞がないように心がけている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	インテークの後、不安を払拭できることを狙い「体験利用」を実施している。この中で実際の職員と居住空間に触れ、心配などところを見出したうえで次のステップの支援をするようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談援助に対しては本人や家族の求めるケアに対して、ホームとしてできることを把握していただき、互いに思い過ぎがないように配慮しながら、ありのままを受け止めていく姿勢を前面に打ち出している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インフォーマルなサービス支援を含め、その地域の社会資源の状態を話し、優先度の高いものから視野に入れてもらうように努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	前述の体験利用のほか、家族と一緒に食事やおやつの時間に参加していただき、雰囲気を楽しんでいただく機会を持っていただいたりしながら柔軟に対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらかつ喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人の意向を尊重し、寄り添うケアを目指している。一緒に楽しみ、つらい場面は共に分かち合い、利用者本位のスタンスを維持した関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族には、日々の暮らしを知っていただけるように、来所時にはその間の入居者の状況を伝え、支える場面を含め、意向を確認している。又、定期的な「しあわせホームだより」では、健康状態を含めた生活場面の記事を紹介している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホームでの生活をとおしての心身の変化を家族に知らせ、安心と喜びを伝えている。家族との思い出は徐々にさかのぼる場合があるが、家族には病気へのよりよい理解をしていただけるよう支援をしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が好む場所や仕草(行動)に予め注目し、違和感を感じないような、さりげない行動で下支えしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人でいる場面では、積極的に職員も声かけし、他の方とも話せる状態を作り出したり、ソファに誘導するなど支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族が経営しているコンビニエンスストアにパンフレットを置いていただいております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外出や趣味を活かした本人の希望など積極的に対応しており、本人の意向を尊重した支援をしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントで本人の意向や家族の要望を聞き、これまでの生活環境等を考慮し、徐々に馴染んでもらえるよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	時期的なものやその日の体調を鑑み、体操やゲーム、外出・鑑賞など1日の過ごし方をリーダーを中心に考慮し、対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	初回インテークの後は、家族の訪問時などに過ごし方への希望や現状などについて話の機会をできるだけ持つようにして、利用者本位の介護計画に反映できるようにしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月例会議の機会を利用して、ミニカンファレンスをし、介護計画の見直し対応をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケースに変化が見られる場合、ケース記録に落とし、情報を共有し、介護計画に反映している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	体調管理については協力医療機関や、地域のかかりつけ医により柔軟かつ専門的なサポートを得ている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の学生による体験学習の受け入れは積極的にし、また、近くの保育園との交流も活発にしている。地域のボランティアによる交流は徐々にその訪問していただく頻度が増えてきている。	○	警察、消防との連携は具体的にはないので、今後の課題として体制の構築を考えたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	函南町の地域ケア会議が定期的開催され、参加している。入退所支援では担当ケアマネジャーと話を重ね、対応している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーとして参加をいただいております。長期的な視点で助言をいただいたり、会議や行事に参加したしています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による電話相談や往診に対応いただいている。受診時にご家族が対応できない場合はホーム職員が支援対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ホームの協力医または、入居前から継続し手いかりつけ医に受診対応していただいている。	○	今後、さらに認知症の専門的な相談対応ができる機関との連携に努めたい
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現状、土日を除いて平日の9時から17時まで、看護師が健康管理の他、ケア対応している。不在時は必要に応じ連絡をとり、健康管理体制を維持している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	退院時の受け入れについては、家族の意向を考慮した上で、可能な限り対応するようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応については、入居契約時にホームでできることを話し、理解をいただいている。具体的事例では、本人と家族が望む場合、ホームでできることを理解していただいたうえで最大限の対応をしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族の協力を得た上で、介護面でできる範囲のことで対応してきた事例があった。今後もできる限り長く寄り添えるよう対応していきたい。	○	今後、社内的に終末期に向けた対応の検討をさらに重ねていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族の協力の元、特に精神的な面での支援ができるようなスタッフ対応を心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個室に入るときは必ず声かけてから入るようにしている。入浴については同性介助が必要な場合、実践している。	○ トイレの呼びかけ(促し)においては、他の利用者に差し障りないように、またご本人に配慮して、小さな声で呼びかけ対応していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人の意思は最大限重視し、危険な場面や不可能な時は十分な説明をした上で対応している。また、選択を促す声かけを実践するよう心がけている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	あくまでも、利用者本位の姿勢や希望・都合を尊重し、寄り添うケアを実践している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	お出かけや髪の手入れなど身だしなみにも家族や本人の意向を反映し、できるだけおしゃれをしていただくように話したり、必要な支援をしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けには、なるべく利用者到手伝っていただいている。また、全員で準備できる食事メニューも考え、趣をかえて食を楽しむ機会を設けている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の趣向や好みは可能な範囲で取り入れている。また、家族からの差し入れなど、みんなで一緒に楽しみながらいただいたりしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一時的にリハパン対応しても、体調的に回復の場面があると、もとの下着に戻したりしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日、自由な時間に入浴できるようにしている。また、入浴剤を使用して変化を楽しんでいただいている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中はなるべく離床を促しているが、本人の希望があればゆっくり休めるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外に出る機会を多く取り入れ、又、自然に親めるよう、園庭の畑で花や野菜を栽培している。月に1回、地域自治会のサロンの集まりに参加して季節感のある催しや軽食を一緒に楽しんでいる。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物では支障のない限り、本人からお金を払ってもらい、お釣りを受け取ってもらうことを推進している。この場合、できる限りではあるが、二人確認を励行している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の散歩、畑、自治会のサロン(悠々サロン)、買い物など、様々な外出機会を創出して支援している。また、外部の方に来ていただくことも大事なことで位置づけ、ボランティア、ご家族はじめ、地域の人に来てもらうことを働きかけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ホームの行事としてドライブをかねた「遠足」に行ったりして、なるべく外出できることを実践している。(イチゴ狩り、オラッチェ牧場、水族館、初詣など)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙やFAXの他、友人からの電話には実際に出たいただいたりすることもある。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や友人は夜間を除いていつでも訪問できる状態にある。また、職員は来訪を歓迎しており、気軽に来て頂けるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては職員会議などとお話している。又会社として「身体拘束ゼロ宣言」をしており、拘束しないケアを実践している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各個室、玄関には日中は施錠はしていない。	○	エレベーターホールの前の引き戸にやむを得ない場合施錠することがあり、この場合はその時間と理由を記録している。1月に開閉センサーを設置してからは殆ど施錠は免れている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日勤リーダーが、日中及び食事の時間、外出の前後にそして、夜勤者は夜間巡回時にそれぞれ安全確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物全てではないが、認識のできる危険物は物品によって、格納レベル(扉の中、引き出し、事務所キャビネット鍵付など)を変えて対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止につながる、ヒヤリハットの意識啓蒙を図っており、職員はその必要性、重要性を認識している。2月より社内に(仮称)リスクマネジメント委員会発足予定)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	平日は看護師が勤務しており看護師に依存するところが高い。看護師は状況によってホーム長に常に連絡取れる体制にしている。	○	看護師から他の職員に水平展開を図り、それぞれの資質向上を図りたい。緊急対応について外部研修の機会を持ちたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	キッチンからの出火を想定して、防災訓練を初めて実施した。非難時間は思いの外スムーズであった。また、煙感知器の点検、自動火災警報装置の作動確認を防災システムの保守管理者立会いのもとに実施した。	○	地域との災害に対する協力関係は確固たるものがまだ築けていない。今後進めていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居契約時に生活上のリスクについて、又、利用者本位の姿勢については個々に話している。その後の変化対応においてはケアプランも含め、個々に家族と話している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者のバイタルチェックは起床後及び午後実施している。変化があるときは随時確認し、情報の共有を図っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は配薬時に職員の2人確認を実施しており、又処方箋の情報共有(一覧表)をしている。そして、変化のあったときはその対処について、看護申し送りノートに記入し、回覧(確認印)している。	○	体調不良時などイレギュラー対応をマニュアル化し、看・介護対応できるようにしていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘に関する利用者情報は排泄表を元に職員間で共有しており、看護師からの申し送りを含め、出版物(介護者のための病気と薬のわかる本)からの知識対応などを図っている。平生から野菜中心のメニューを心がけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	全員の口腔ケアを毎食後、実施しており、義歯を含めて清潔が保てるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量の記録を参考に、不足が懸念される方には都度、個別に対応し、エネルギー必要量の確保を図っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に関する職員ミニ研修を会議の中で実施し、事前知識に備えた。また、利用者、職員全員がインフルエンザの予防接種をしている。さらに、入口には、注意書きを掲示し、入室者全員に手指消毒ジェルを置いて入室時に呼びかけ、使用している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材はまとめ買いをしないで、その日に食べるものをその日に買いに行くようにしている。（一部の保存食を除き）、また、残ったご飯など冷凍保存する場合は、日時をいれて経過時間がわかるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関口に季節の花がプランターに咲いている。一般の戸建て住宅の入り口のような雰囲気であり、むしろ親しみやすさがある。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の立地上、南面と西面には田んぼが広がり、畳コーナーを含んだ30畳の開放的な居間には明るい季節の光が降り注いでいる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの隣には畳コーナーがあり落ち着いた居場所が確保されている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各個室には、慣れ親しんだ家具や調度品、家族と撮った写真などがあり、落ち着く雰囲気をもった部屋になっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各室には空気清浄器が設置され、大型リビングには開閉式の換気窓がある。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の室内はバリアフリーになっており、通路も広く取ってある。また、車椅子での利用が可能な洗面台、トイレが設置されている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	それぞれの利用者が保有する能力を引き出し、さりげない支援で普段と変わらない生活ができるよう、職員は意識を持ってケアに努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の南面に畑があり、季節の花や野菜が楽しめる。芝生では日なたぼっこや腰掛けておしゃべりなど思い思いに過ごせる場となっている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員は閉じこもらない介護を理解しており、なるべく外に出て、健康な心身を維持できるよう努めている。また、地域に密着したグループホームを目指して、地域交流を積極的にすすめている。食事については、週に2日程度、料理の専門職（割烹料理の経験50年）の方に来ていただいて昼食を提供し、「料亭の味」を楽しんでいただいている。